

2021年6月5日(土)  
～7月11日(日)



雪輪・四方刺透鉄鏝  
号 残雪・名物



竹に鑿四十分一鏝  
銘 程兼作 光季(花押)

あかがね  
くろがね

企画展

Thematic Exhibition June 5 (Sat) - July 11 (Sun) 2021  
"Red Gold"/"Black Gold": The Beauty and Utility of Copper and Iron

## 展覧会概要

本展の主人公は一見地味な「銅」と「鉄」です。<sup>あかがね</sup>銅と<sup>くろがね</sup>鉄。金属の中でも、派手で豪華な金・銀ではなく、銅と鉄に着目して徳川美術館の所蔵品を眺めてみると、実用性と装飾美を兼ね備えた金属工芸品の創意工夫が見えてきます。それぞれの金属の性質を理解し、合金技術や鑄金・鍛金・彫金などの加工技術を用いながら、当時の人々は、さまざまな金属工芸品を生み出してきました。

こだわりが詰まった刀装具などの武具類をはじめ、尾張徳川家に伝えられてきた金属工芸品の数々を通して、銅と鉄の魅力に迫ります。

## 展覧会基本情報

- ◆展覧会名 企画展 あかがね / くろがね
- ◆会場 名古屋市蓬左文庫展示室
- ◆会期 2021年6月5日(土)～7月11日(日)
- ◆開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- ◆休館日 月曜日
- ◆観覧料 一般1,400円 高・大生700円 小・中生500円  
※徳川美術館本館展示室にて同時期開催の特別展「名刀紀行—京・大和と九州—」と共通  
※20名様以上の団体は一般1,200円 高・大生600円 小・中生400円  
※毎週土曜日は高校生以下無料
- ◆作品数 約80件
- ◆主催 名古屋市蓬左文庫・徳川美術館
- ◆協力 名古屋市交通局

## プレス内覧会

2021年6月4日(金)

プレス内覧会：午後1時30分～3時 受付：午後1時15分 会場：徳川美術館 講堂

展覧会担当学芸員による概要解説の後、自由取材

- ・内覧会以外でも、会期中は随時取材をお受けいたします。
- ・動画撮影につきましては開館時間外も対応いたしますので、ぜひお気軽にご相談ください。



## 第1章 <sup>どう</sup>銅だ！

銅と人類の出会い、紀元前 8000 年頃、中東で偶然、自然銅（他の物質と化合せず、単体で存在する銅）を発見した時だと言われています。その後、中国で銅の使用がはじまり、弥生時代に日本列島に青銅器がもたらされました。

ほどよい硬さと扱いやすさが持ち味の銅は、楽器から貨幣まで多様な金工品に使われました。また銅は本来、赤茶色をしています、他の金属と混ぜることで色味が変化し、銀白色にも黄金色にもなります。金工品の中で銅は七変化しながら使われていくのです。

おうどうひまごがなはなけいかなやごろうさぶろうゆうがまきすいほつなかむらそうてつ  
黄銅瓢形花生 金谷五郎三郎作 / 夕顔時絵垂撥 中村宗哲作  
両作品ともに 江戸時代 19 世紀

黄銅の色味となめらかさで、瓢箪形の実のつるりとした質感があらわされています。実の部分は金属、後ろの葉や蔓は漆を用いた時絵で表現されています。それぞれの素材や技術の特徴を生かした、立体と平面のコラボレーションです。

からはもんしつぽうかしぼち  
唐花文七宝菓子鉢 中国・明時代 16-17 世紀

七宝は大きく象嵌七宝と有線七宝の二つに分けられます。本品は模様の輪郭となる線が見えていることから、有線七宝にあたります。有線七宝は、金属の上に銅線で模様をあらわし、そこに色とりどりの釉薬をさして作られます。こ



## 第2章 <sup>てつ</sup>鐵は金の王なる哉 <sup>かな</sup>

鉄と人類との出会いは、紀元前 3500 年頃のトルコ周辺で、隕石などから変質してできた鉄を発見した時だと言われています。日本列島には、青銅器と鉄器がほぼ同時期に中国・朝鮮半島からもたらされました。

鉄鋼の父と称される物理学者・本多光太郎（1870～1954）は「鐵」が金・王・哉で構成されるため、「鐵は金の王なる哉」と評しました。このように評されるほどの硬さや強さを持つ鉄は、武具や日用の道具として実用的に用いられました。



りゅうもんぞうがんなんばんかぶと  
龍文象嵌南蛮兜

桃山～江戸時代 16-17 世紀

鉄板を貼り合わせて作られた兜で、継目を極力減らしている点が特徴です。こうした継目の少ない南蛮胴具足は、桃山時代に西洋から輸入され、それを真似て作ったり、改造したりして日本で用いられました。戦いで鉄砲が使われるようになり、それに合わせて甲冑も強固さが求められるようになったためです。

## 第3章 刀劍—折れず、曲がらず、よく切れる—

鉄の実用性と美しさの両方を兼ね備えた珠玉の名品のひとつに刀劍があります。主に砂鉄を製錬してできた<sup>たまはがね</sup>玉鋼を素材とし、それを何度も折り返しては叩く作業を繰り返して、強さを引き出していきます。また硬さの異なる鉄を使うことで、武具としての強さのみならず、地鉄などの美しさも生まれました。

## 第4章 <sup>とうそうぐ</sup>刀装具—折紙付きの匠のワザ—

銅や鉄を素材とし、ひときわ光彩を放つ金工品のひとつに、鐺をはじめとする刀装具が挙げられます。小さい画面の中に広がる世界には、赤銅の繊細さや優美さ、鉄の素朴さなど素材の特徴が存分に発揮されています。刀装具を単に刀劍の<sup>こしらえ</sup>拵の附属品に留めるのではなく、素材やデザインにこだわって芸術作品の域にまで昇華させた<sup>しょうか</sup>金工職人のワザも光ります。



なげにわとりしちふちつばめいていじょうごとうけ  
竹に鶏図四分一鐺 銘程乘（後藤家9代）作 光孝（同家13代）（花押）  
江戸時代 17 世紀

金色の竹と鶏に目が行きがちですが、地金の魚々子に注目してください。一条乱れず、迷いもなく魚々子が鑿で打たれています。思わず息を止めてしまいそうです。



ゆきわ よほうけんすかしてつばごうざんせつめいぶつ  
雪輪・四方剣透鉄鐺 号残雪 名物

室町時代 15 世紀

金工作品では、金や銀を用いた華やかな作品が目立っていますが、それに比べて本品は、鉄をくり抜いた、いたってシンプルで素朴な作品です。だからこそ、鉄独特の重みや硬さ、質感が伝わってきます。

## 展覧会関連イベント

### ◆担当学芸員の見どころガイド

日時： 2021年6月20日(日) 午後1時～1時30分(開場12時30分)  
会場： 徳川美術館 講堂  
定員： 当日先着60名  
料金： 無料(入館料別途要)

## 視聴者・読者プレゼント提供

企画展「あかがね/くろがね」を、ぜひ御社媒体にてご紹介ください。  
画像を1点以上使用してご紹介いただいた場合、視聴者・読者プレゼントとして本展覧会のご招待チケット(非売品)を、1媒体5組10名様にご提供いたします。  
本券で同時期開催の特別展「名刀紀行—京・大和と九州—」もご覧いただけます。

## お問い合わせ

取材は随時お受けいたします



〒461-0023 名古屋市東区徳川町1017  
TEL: 052-935-6262 (10時～17時受付)  
052-935-8222 (営業時間外受付)  
FAX: 052-935-6261

[報道関係対応窓口] 徳川美術館 管理部

吉川 由紀 yuki@tokugawa.or.jp  
竹内 大知 d.takeuchi@tokugawa.or.jp



企画展 あかがね / くろがね

広報画像申請書 使用期間：～2021年7月11日



No.1  
雪輪・四方剣透鉄鐺 号 残雪 名物  
豊臣秀頼・徳川家康・徳川吉通(尾張家4代)所用  
室町時代 15世紀  
徳川美術館蔵



No.2  
竹に鶏図四分一鐺 銘 程乗作 光孝(花押)  
江戸時代 17世紀  
徳川美術館蔵



No.3  
龍文象嵌南蛮兜  
桃山～江戸時代 16-17世紀  
徳川美術館蔵



No.4  
唐花文七宝菓子鉢  
中国・明時代 16~17世紀  
徳川美術館蔵



No.5  
黄銅瓢形花生  
金谷五郎三郎作  
江戸時代 19世紀  
徳川美術館蔵

夕顔時絵垂撥  
中村宗哲作  
江戸時代 19世紀  
徳川美術館蔵

使用媒体

放送日・発売日

プレゼント提供 希望する ・ 希望しない

貴社名

ご担当者様

データ送付先アドレス

ご連絡先電話番号

[ご利用にあたっての注意事項]

- ・画像のご利用は本展覧会の紹介用途のみに限ります。
- ・部分アップのトリミングは可、色変更等の加工はご遠慮ください。
- ・二次利用不可です。
- ・画像には最低限「タイトル」と「所蔵」のクレジットを明記してください。
- ・内容確認のための校正原稿をお送りください。
- ・ご掲載誌、DVD等を1部「徳川美術館 管理部 広報宛」でお送りください。



〒461-0023 名古屋市東区徳川町 1017

TEL: 052-935-6262 (10時～17時受付)

052-935-8222 (営業時間外受付)

FAX: 052-935-6261

担当: 吉川 yuki@tokugawa.or.jp

竹内 d.takeuchi@tokugawa.or.jp